

令和6年度 第1回江南市運動部活動の地域移行に関する検討委員会議事録

開催日時：令和6年7月25日（木）午後2時～午後3時38分

開催場所：KTXアリーナ 2F 会議室3

出席者：大勝志津穂委員、岩田正武委員、河合荘太郎委員、水野三佳委員、
山田尚代委員、櫻澤弘章委員、安藤善啓委員、岩田一洋委員、
植島禎一委員、横山史明委員 委員計10名
村教育長
事務局

欠席者：なし

傍聴者数：1名

教育長あいさつ

委員長・副委員長の選出

江南市運動部活動の地域移行に関する検討委員会設置要綱第5条第2項の規定に基づき、委員の互選により大勝委員を委員長に選任し、委員長の指名により岩田正武委員を副委員長に選任。

報告

- (1) 令和5年度検討の経緯について

議題

- (1) 今後の展開について
 - ・江南市の方針について
 - ・江南市運動部活動地域移行 推進計画について
 - ・江南市の取組と検討課題について
- (2) 作業部会の設置について

会議資料

- 資料1 江南市運動部活動の地域移行に関する検討委員会委員名簿
江南市運動部活動の地域移行に関する検討委員会設置要綱
- 資料2 令和5年度 報告書
- 資料3 江南市の方針 ～学校部活動の地域移行に向けて～
- 資料4 江南市運動部活動地域移行 推進計画（案）
- 資料5 江南市運動部活動の地域移行スケジュール
- 資料6 R6 江南市運動部活動実証事業 実施比較

- 資料 7 学校運動部活動の地域移行に関するアンケートの結果概要について（報告）
- 資料 8 運動部活動の地域移行について（お知らせ）別紙 1・2
- 資料 9 江南市運動部活動の地域移行に関する検討委員会作業部会委員名簿

議事内容

報告（1）令和 5 年度検討の経緯について

○事務局

資料 2 により説明

令和 5 年度に検討委員会、作業部会にて議論した内容は、「令和 5 年度 報告書」としてまとめ、江南市運動部活動の地域移行に関する検討委員会設置要綱第 9 条の規定に基づき、本年 4 月 5 日開催された教育委員会に提出した。

令和 8 年度の 2 学期を目標として、休日の運動部活動を地域クラブへ移行することについて、

1. 地域クラブの、運営主体を総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブ江南」を第 1 候補とする。
2. 休日の学校の運動部活動は原則として実施しない。
3. 目標期日であっても、準備が整えば設置可能な種目から進める。
4. 市内 5 校が合同で実施するクラブとする。
5. 会場は原則として、学校施設を利用する。
6. 活動時間は、休日（土・日）いずれかの 3 時間程度とする。

令和 8 年 2 学期以降の中体連の大会には、地域クラブでの参加を目指すこととするが、これまで学校運動部活動で大会に参加していた主に中体連の大会は、令和 8 年 2 学期までは、学校単位で参加するものとする。また、地域に移行していない種目は、地域連携を進めながら、学校単位で参加する。学校部活動にも、地域クラブ活動にもない種目は校長の許可により学校単位で参加することとする。

大会への参加意義を鑑み、中体連の大会への参加要件、参加者への支援など、最新の情報収集に努め、地域クラブの運営に反映していく。

地域移行にあたっての懸案事項については、会場の設定、受益者負担について、保険の加入について、指導者報酬について、生徒への財政的な支援策等、10 項目を挙げている。

○委員長

この報告は昨年度、委員が目を通してしている内容である。

議題（１）今後の展開について

○事務局

江南市の方針について 資料３により説明

江南市運動部活動地域移行 推進計画について 資料４、５により説明

資料３「江南市の方針 学校部活動の地域移行に向けて」は、江南市が示す方針（案）である。「江南市の基本的な考え方」、「江南市地域移行」、「大会参加の基本的な考え方」で、現状と地域への移行後の様子を示している。

また、地域移行を推進していくために必要な検討事項をまとめている。

資料４は、本取組について「推進計画」を策定し、目的を明確にして推進体制を整理するものである。

冒頭の「はじめに」では、本計画策定に至る経緯、背景を示している。この推進計画は、計画期間を令和８年８月末までとし、まずは休日における運動部活動の地域移行を円滑に進めることを目的とするものである。

最後に、この計画は社会情勢の変化や、国や県、中体連などの関係団体が新たに示す方針により、必要に応じて見直しをする。

また、推進体制としてそれぞれの関係団体の役割を定めている。

江南市教育委員会の役割は、（１）生徒、保護者への周知とニーズを把握するため、取組状況について、機会を捉えて保護者はじめ関係者に周知し、活動内容をPRし関心を高めていき、必要に応じてアンケートを実施し、取り組みに反映していく。

（２）地域との連携と必要となる財源の確保では、事業主体の総合型スポーツクラブ「スポーツクラブ江南」への運営委託及び生徒、保護者等への経済支援等の予算を確保していく。来年度の予算には、「スポーツクラブ江南」の運営、生徒の受益者負担に係る支援、指導者資格研修等について、予算要求を予定している。

なお、地域での持続可能な協働活動とするため、各種スポーツ団体、民間企業、各種教育機関との協力・連携体制の可能性について検討したいと考えている。

現在、候補として挙げている、事業主体とする総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブ江南」の役割は、（１）地域クラブの円滑な運営として、参加者が楽しく、安心安全に活動できるよう実証事業の運営に努める。（２）「指導者を適切に配置するための人材確保」として、指導者になり得る人材の確保とデータベースの作成、管理及び地域人材の発掘と育成に努める。（３）「参加者の円滑な活動支援と緊急時の連絡体制の構築」では、専門スタッフを配置して参加手続、スポーツ安全保険への加入手続を行い、参加者から参加費等必要な経費を円滑に徴収する方法を確立していく。また、緊急時及びトラブルに対応するため、関係者間を繋ぐ緊急連絡網を整備していく。

江南市立中学校の役割としては、休日の運動部活動の地域移行が円滑に実施できるよう、教職員間で共通理解を図るとともに、平日の運動部活動と休日の地域クラブとの連携を図り、部活動顧問と地域指導者間で、指導法や生徒の状況等の情報共有を行う。

以上が推進計画（案）の説明となる。

資料５「江南市運動部活動の地域移行スケジュール」は、江南市の方針及び推進計画に沿って、令和６年度から８年度の関係団体ごとの進行予定を記載してある。引き続き検討委員会、作業部会を開催して、課題等を議論、精査をしていく。保護

者等へ説明会などを通じて周知及び情報共有及び生徒への実証事業の参加募集、PRなどを適切なタイミングで行うよう計画的に進めていきたい。

○委員

それぞれの役割は理解できるが、いろいろと連携をして進めていかなければならない。それをどこが調整して全体をまとめていくかを検討していく必要がある。

○事務局

基本的には教育委員会の事務局が全てに関わる必要がある。連携を取りながら進めていく。

○委員長

連絡調整の部署を設置するという形もあると思うが、そうはならないということか。

○事務局

スポーツ推進課が窓口となる。教育課の指導主事等に協力を願うこともあると思うが、基本的にはスポーツ推進課に統一して行っていく。

○委員

スケジュールの中に PTA 役員会に周知とあるが、必要なのか。

○事務局

江南市の動きについて、保護者や生徒にアンケートや文書の投げかけがあるのでよろしくお願ひしたい等のお知らせを PTA の役員にお願ひし、そこから保護者達に情報が広まればよいと考えている。

○委員長

推進計画で具体的にある程度が目途が分かった方がいいのではないか。例えば推進体制の中で民間企業との連携について想定している企業はどこかとか、スポーツクラブ江南に専門スタッフの配置を想定していると思うが、これらの見通しを入れた方がよいと思う。

○事務局

関係する団体としては、スポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員の皆様意見や協力をいただきたい。民間企業については江南市民駅伝大会等で協賛や協力をいただいている企業、学校に協力を求めていくことも必要である。可能性について検討していくとしている。

地域クラブの専門スタッフについては、今後のニーズに備えてスポーツクラブ江南と相談して体制づくりを考えていく。必要な費用も検討していくことになる。

○委員

専門スタッフは、スポーツクラブ江南の中に置くのか、別グループにするのか、どちらを考えているのか。

○事務局

スポーツクラブ江南の中に置くべきであると考えている。連絡調整にスポーツ推進課が関わって、事業がスムーズに進むよう連携をとることになる。

○委員

スポーツクラブ江南を主体として試行実践を進めているのだが、トラブル等が起きた場合、責任の所在の整備はどの様に考えているのか。

○事務局

責任の所在は重要な点である。市が委託する形なので、委託する側にも責任はあると思うし、委託された中で仕様にある部分にはスポーツクラブ江南に責任を負っていただくこともある。指導者の方にも責任を持っていただくことになると思うが、まだ明文化していないので、これから皆様にお示しできるよう整備していかなければならないと思う。

○委員長

リスクマネジメントについては、推進計画の中に盛り込むのではなく、実際にスタートしていく中で考えていくということとなる。

それでは、資料6、7、8に進めていく。

○事務局

江南市の取組と検討課題について 資料6、7、8により説明

資料6は本年度試行実践を行っている前期の8種目の6月21日までの参加実績表である。昨年度から軟式野球と剣道を新たに加えて活動を行っている。現在、延べ190名の参加があり、中には複数種目への参加者もみられる。現在は、資料の数字から数名増えている状況である。

資料7は今年度5月30日から6月5日の期間で、学校運動部活動の地域移行へのニーズを聞き取るため、市内の小学5・6年生の児童とその保護者それぞれを対象としたアンケートを実施した結果である。回答率は、児童 96.2%、保護者 41.0%となった。昨年度、保護者を対象としたアンケートの回答率32.6%を上回る結果であった。

地域クラブへ参加するうえで受益者負担が生じることについて、「理解したうえで参加する」と回答した保護者が45.6%の結果である。

学校の運動部活動から地域クラブに移行した場合、地域クラブに入らないと回答した児童が47.6%、地域クラブには入れないと回答した保護者が37.9%という結果も出ている。

また、地域クラブでも、学校の部活動と同じ種目に参加したい、参加させたいと回答する児童、保護者の割合が多い状況であった。

これらの結果を踏まえて、参加者の多様なニーズを理解し、指導者等の人材確保など受入体制の構築を進めていく必要があるものと認識するところである。

資料8は昨年度実施したアンケートの結果等から、江南市が取組む運動部活動の地域移行については、周知や情報提供をより一層行っていく必要があると考えられ

たため、校長会始め学校と連携し、小中学校保護者全員にお知らせ文書と説明資料、Q&A形式のチラシを添付して配布したものである。

この部活動の地域取組については、今後も新たな情報や進捗状況等のお知らせを丁寧に行い、児童・生徒及び保護者の関心を高め、ご理解をいただく必要があると考えている。

○委員

小学生には中学校の部活動が地域移行されることについて、保護者はアンケートしか受け取っていない状況であるため、まだ、保護者にアピールされていないと思うので、その機会を増やせば関心が高まり、アンケートの回答率も上がるのではないかと。保護者会等で学校に行く際に、出向いて説明ができる場所を設けることができないかと思う。書面だけでなく対面で説明し、質問も受け付ける機会を作れないかと思った。

○事務局

周知の不足を感じているので、計画の中にも機会を捉えて周知していくとしている。学校とも協力、連携していけるよう考えていく。

○委員

競技によっては、他の学校の生徒も含めて、学校の部と地域クラブの両方に所属している生徒もいる。早い時期に、保護者にも生徒にも、どのような体制で実施していくかを知らせていくことも必要である。

○委員

アンケートは作業部会の案として実施したものか。

○事務局

今回はスポーツクラブと話しをする中で、生徒の受け皿をどの程度の規模で用意する必要があるかを聞き取る目的で実施した。地域クラブへの参加の意向、参加希望種目を聞くことに特化したものである。

○委員

今後の作業部会はどうしていくのか。

○事務局

作業部会は次の議題になるが、推進計画の内容で必要なことを議論していく。その意見をまとめて、次回の検討委員会で再度議論していく。

○委員

生徒の回答率は良いが、保護者の回答率が50%に満たないことは、どう考えるか。

○事務局

部活動に頼らない家庭が増えていること、周知が不足していること、内容がよく理解できないので回答しない、ということがあると分析している。

○委員

生徒の回答の中で「地域クラブには入らない」とする生徒が約半数いることは、スポーツに関わる者として残念である。この理由は精査できないか。

○事務局

半数が地域クラブには参加しないということであるが、半数の全てがスポーツを行わないという訳ではなく、民間のクラブチームや部活動に無い種目を行う生徒もいると考えている。

○委員

質問の仕方がスポーツに偏り、文化部に興味がある子は回答が難しい。質問を工夫した方がいいと思う。

○事務局

アンケートはこれからも折を見て実施していくので、ご意見をいただき、質問の内容を考えていきたい。

○委員

生徒は中学校で運動部活動に入る予定との回答は約65%いる。休日には参加しないが、平日は学校部活動をするを選択する生徒も出てくる。休日はレベルの高いクラブチームに入る選択もある。大会に出たい生徒は、土日に地域クラブに入ることに慣れていくのではないか。

○委員

平日は学校でスポーツをして、休日は自由に過ごす選択が今後は増えていくのではないか。アンケートでは、まだ、はっきりと前面には出せないが、今後、大会には地域クラブに入らないと出場できなくなる、ということがわからない。大会への参加も大きなことなので、そうであれば参加を考えるとということになるかもしれない。意識も変わってくると思うので、推進計画の中でいつ頃そのような方針を出すのか等を意識していかなければいけないと思う。

○事務局

中体連は2月頃に方針が出るのではないかと思うが、今は詳細がわからない。また、中体連の方針により動きを変えていくことにもなるので、情報を早くつかんで適切な方向に向かえればと思う。

○委員長

推進計画については、皆様からの意見を基に作業部会に諮り、次回の検討委員会で決めていくことになる。

○教育長

推進計画は必要なので作るのだが、基本的なものであり、これからの情勢で追加する点も出てくると思う。細かい点までは触れられないこともある。目標の令和8年2学期までには、こういうことをしていく必要があるということを皆で意識して、追加すべきことはしていく、という考えの推進計画であることを理解していただきたい。

○委員長

大会に出るか出ないかは、重要なポイントになる。生徒たちにしっかりと説明したうえで検討を進めていくことが大切である。

それでは議題（2）に入る。

議題（2）作業部会の設置について

○事務局

資料9により説明

本委員会の設置要綱の第7条第1項に「作業部会を置く。」としている。

また、同条第2項では、作業部会の役割について定めており、第2条に規定する事項の調査及び検討、並びに計画の素案を作成するとしている。

同条第3項以降は、作業部会の構成員、作業部会の部会長についての定めである。

この作業部会については、昨年度に引き続き、委員の皆様には検討をいただくために必要であると考えており、作業部会の決定にあたり、委員の皆様のご同意に基づき、委員長に決定をお願いしたいと考えている。

「本委員会作業部会（案）委員構成」で、部会長として、教育部長を充てるほか、教育行政機関関係者及びスポーツ団体関係者を候補としている。

予め、第1回作業部会は、8月9日（金）午後2時から KTX アリーナ 会議室3 に於いて開催することを予定している。

○委員

作業部会を行う目的、趣旨を明確にして欲しい。

○事務局

作業部会の趣旨は、検討委員会で議論するための例えば数字の根拠であるとか、現場の状況等の声を聞かせていただき、まとめたものを検討委員会にあげていくこととしている。今回の推進計画についても作業部会でも意見をいただく予定である。

○委員

検討委員会と作業部会があり、どこが調整機関となり、どのように関わってスポーツクラブ江南に委託することになるのか。

○事務局

作業部会の委員、スポーツ推進課で意見のとりまとめ、聞き取りをしていく。スポーツクラブ江南とのやり取りも必要であり、今、実施計画を作成中であるが、その中にも意見をいただくこともある。

○委員

先ほど、保護者への周知が不足しているという意見があつたが、作業部会の中では、その点どう動いていたのか。そういうことを補うために作業部会を作るのではないか。

○委員

アンケートを実施することで、ある程度周知は進んでいると思う。今言えることと言えないこと、作業部会で了解を得ないままアンケートに出せない項目もあると思う。そのあたりを検討していきましょうということ意味であり、作業部会のことをいっている訳ではないのではないか。

○委員

作業部会のメンバーが気づいて、指摘されないようにしていかなければならないと思う。

○事務局

委員は各団体の代表でもあるので、それぞれご意見をいただくこととしたい。

○委員

試行実践は、やめて欲しい。各種目で部活に対する思いが違っている。上を狙うようなことなら、土日の3時間程度では無理である。そういうことを含めて作業部会が取り組む責任があるのではないか。

○事務局

活動の趣旨は、学習指導要領にあるように勝利至上主義に特化しない活動、今の部活動の趣旨に沿った活動で地域クラブを実施していくことが望ましいと考えている。アスリート養成ということとは一線を画すものと考えている。

○委員

会費を上げて強くなりたい、という声もある。一律の金額で行うこともどうかと思う。そういうことを作業部会で取り上げて欲しい。

○事務局

最終的なものとは変わるかもしれないが、当初は「生徒の居場所」づくりを主眼に置きたい。スポーツができる人もできない人も、体を動かしたいという気持ちがある生徒が入りやすいものになればよいと考えている。ゆくゆくはニーズによって枝別れしていくことになるかもしれない。

○委員長

作業部会の設置について認めていただけるか、次に作業部会で何を要望するかを出していただきたい。

○事務局

まずは、推進計画についてご意見をいただくための組織となる。

○委員

部会を作って、詳細とか調整役の話とかを含めて、現場に対して内容を周知していかなければならないので必要な部会となると思う。

○委員長

まずは、設置及び委員については承認をいただけた、ということでよいか。

(異議なし)

要望等はないか。

○委員

学校として作業部会委員に入っている委員が中学校教諭だけなので、関わってくる小学校教諭に入っただくということは可能か。

○事務局

教育委員会の指導主事が委員として入っているため、小学校からの意見は指導主事を通じていただくことで対応したいと考えている。

○委員

確認で、検討委員会設置要綱では、作業部会を設置するとしているので、作業部会のなかでいろいろな要望を捉えて推進していくということによい。

○委員

作業部会で何をどこまでやるのかを明確にしていく必要がある。

○委員

作業部会は、検討委員会の方針を基にして、必要な作業を進めていくことによいと思う。検討委員会の方向性を尊重してやっていくことで了解いただくことによいのではないか。

○委員

指導員がどれほど必要なのか、学校によってはできる部活とできないものがある。どう進めていけばよいかとか考えていかなければならない。

○委員長

スポーツクラブ江南の現場の中で、問題や懸念が多くあると思う。教育委員会で

聞き取って進めていただきたい。

○委員

他市町の状況、具体的な動きはあるのか。

○事務局

たくさんある。大口町では、地元のスポーツクラブによる地域連携の形で動いている。地域移行の例としては、長久手市は民間委託で進めており、半田市は、学校単位で校区毎のスポーツクラブに委託している。春日井市も昨年度から教育委員会が運営主体となって動いている。

○委員長

地域の事情によって全然違う。経済事情等も異なるため、情報として知っておく程度でよいと思う。

○委員

人口と生徒数によっても違う。

○委員

作業部会で、令和9年からの中小体連の大会から、現状でわかる範囲でよいので、どんな参加の仕方になっていくのかを調査して欲しい。実証事業の種目に関して、実際のデータやどんな声が出ているのかをまとめて欲しい。

○事務局

現在把握している問題点は、屋外の種目で雨が降った場合、代替の場所の確保が難しいこと。部活動と並行して実施されているため、学校行事等とスケジュールが重複することもあり、5校全てが集まることが難しい。指導者の指導内容に偏りがあることなどを聞いている。

指導者の確保も課題であり、現在64名で、内訳は兼職兼業の教諭17名、社会人31名、学生16名、愛知県の人材バンクでは21名が登録している状況である。

○委員長

指導者の件は非常に大切なので、資料として種目別の指導者数、登録者数をいただきたい。また、現在試行に参加している生徒と保護者の声を聴きたい。

○事務局

スポーツクラブ江南で指導者研修会を行う予定をしている。その中で試行実践参加者、保護者へのアンケートを合わせて行う。実施は9月か10月に行う。取りまとめると次回の検討委員会には間に合わない。クラブでニーズを把握することを考えている。

○事務局

対象者を広くするアンケートは教育委員会で検討していきたい。スポーツクラブ

で行うアンケートは、試行実践について、参加された方の感想及び意見を吸い上げるものとして行うということをご理解いただきたい。

○委員長

最後のその他について事務局から。

○事務局

この検討委員会の公表用議事録作成後の確認をお願いしたい。

次回第2回検討委員会は、10月4日（金）午後2時から予定をしておりますのでご出席をお願いしたい。